

## ■東京ダービー（S I）アラカルト（過去全 62 回の分析）

---

※第 1 回（昭和 30 年）から第 9 回（昭和 38 年）までは「春の鞍」の名称で実施  
※第 10 回（昭和 39 年）、第 11 回（昭和 40 年）は「東京都ダービー」の名称で実施  
※第 13 回（昭和 42 年）から第 44 回（平成 10 年）までは大井ダ 2400m で実施  
※記録は平成 29 年 5 月 10 日時点

### ■単勝 1～2 番人気馬の 3 着内率は 6 割前後

単勝 1 番人気馬は 24 勝、2 着 6 回、3 着 9 回で、3 着内率が 62.9% となっている。なお、単勝 2 番人気馬は勝利数こそ 8 勝どまりだが、2 着 16 回、3 着 13 回で 3 着内率が 59.7% となっており、単勝 1 番人気馬とほぼ変わらない水準だ。

### ■約 7 割の年で単勝 3 番人気以内の馬が勝利

過去 62 回のうち 43 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。また、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュは 25 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュは 9 回あった。

### ■“一冠目”と“二冠目”を制した馬は 25 頭

南関東 3 歳クラシック競走における“一冠目”の羽田盃と“二冠目”の東京ダービーを制した馬は、過去に 25 頭いる。なお、そのうちヒカルタカイ（第 13 回）、ゴールデンリボー（第 21 回）、ハツシバオー（第 24 回）、サンオーイ（第 29 回）、ハナキオー（第 32 回）、ロジータ（第 35 回）、トーシンブリザード（第 47 回）の 7 頭が“三冠馬”となった。

### ■“無敗”のダービー馬は 2 頭だけ

2 着以下に敗れたことがないまま東京ダービーを制したのは、第 47 回のトーシンブリザード（東京ダービー優勝時点で 7 戦 7 勝）第 50 回のアジュディミツオー（同 4 戦 4 勝）の 2 頭だけである。

## ■外国産馬は2勝、牝馬は5勝

過去62回の優勝馬62頭中、外国産馬はローヤルレザー（第1回）、シーチャリオット（第51回）の2頭、牝馬はローヤルレザー（第1回）、ヒガシユリ（第11回）、ロジータ（第35回）、アポロピンク（第37回）、クラベセクレタ（第57回）の5頭である。

## ■騎手別の歴代最多勝記録は「6」

騎手別の勝利数を見ると、赤間清松騎手の6勝がトップ。現役騎手では石崎隆之騎手と戸崎圭太騎手の4勝が最高だ。なお、出走回数が35回に達している的場文男騎手は、これまでに2着が9回、3着が4回あるものの、未だ優勝経験なし。初勝利となるかどうか毎年注目を集めている。

## ■調教師別の歴代最多勝記録は「5」

調教師別の勝利数を見ると、5勝の川島正行調教師、出川己代造調教師がトップタイとなっている。

## ■フルゲートの大外枠＝馬番16番は優勝例なし

枠番別勝利数を見ると、12勝の6枠が単独トップ。10勝の5枠が2位だ。また、馬番別勝利数を見ると、5番と9番が6勝でトップタイ。6番、10番、11番、12番、13番が5勝で続いている。なお、16番だけは未だに優勝例がない。ちなみに、馬番別の2着数を見ると、10回の4番が単独トップ。2位タイの7番、8番（各7回）を大きく引き離している。

<伊吹雅也>